

2024 年度

《小規模多機能型居宅介護 サービス評価》

サテライト三日市場

事業所自己評価・・・・・・・・・・（事-①⑤⑨）  
総括表

令和7年3月31日  
小規模多機能型居宅介護 サテライト三日市場

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6 年 1 2 月 1 3 日 ( 1 9 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0 )

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 6 名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0 人	6 人	0 人	0 人	6 人

前回の改善計画
<b>情報の共有ができていれば、支援につながると考えて良い事をみんなに伝える。</b>
前回の改善計画に対する取組み結果
朝礼と 1 日の終わりの報告、職員会やアセスメントなどの回覧で情報の共有ができています。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	0	6	0	0	6
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	2	4	0	0	6
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	1	5	0	0	6
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	5	0	0	6

できている点
<ul style="list-style-type: none"><li>本人の情報は朝礼や回覧などで共有できている。</li><li>本人に直接必要な支援を聞いている。</li><li>家族に会えた時には必要なサービスを聞いて検討できている。</li></ul>

できていない点
<ul style="list-style-type: none"><li>情報は共有できているが、家族と直接会うことがなかなかできないのが現実。</li><li>利用開始前本人は入院中で、面会も難しい状態。自宅に戻ってから直ぐにどのようなサービスが必要か把握できない。</li></ul>

次回までの具体的な改善計画
<ul style="list-style-type: none"><li>引き続き情報は回覧で確認できるようにしていく。</li><li>職員会でサービス内容について計画作成担当者に伝えてもらう。</li></ul>

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和6年12月13日(19:30~20:00)
------------------	-----	-------------------------

5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	6名
----------------	------	----

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	0人	1人	5人	0人	6人

前回の改善計画	
・地域資源とは何かについてもう一度確認する。	
前回の改善計画に対する取組み結果	・地域資源について、みんなで勉強会はできなかったが、ということが地域資源なのか伝え合い、意識することができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	0	5	1	0	6
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	4	0	0	6
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができますか?	5	1	0	0	6
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	3	3	0	0	6

できている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業種との連携ができている。</li> <li>・利用者や家族の希望を聞いたり、変化に気づいて細かな対応ができている。</li> </ul>
--------	---

できていない点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者自宅近隣住民など、身近な地域資源が把握できていない。</li> </ul>
---------	--

次回までの具体的な改善計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源についてもう一度職員で学習する。</li> <li>・センター方式の用紙を使い、その方の地域資源を書き込む。</li> </ul>
---------------	---

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和6年12月13日(19:30~20:00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 6名

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	2人	4人	0人	6人

前回の改善計画
大きな声で話さないように、常に利用者さんが周りにいる事を意識する。皆で注意しあう。 トイレ内に排泄表を作る。
前回の改善計画に対する取組み結果
・トイレ内の排泄表はプライバシー上良くないので排泄カードを作り活用した。 ・排泄に関して、大きな声で話している時があり、都度声を掛け意識しあうことができた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	3	3	0	0	6
②	虐待は行われていない	2	4	0	0	6
③	プライバシーが守られている	0	5	1	0	6
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	2	0	3	6
⑤	適正な個人情報の管理ができている	0	5	1	0	6

できている点
・法人で虐待防止委員会を設置し、委員会の開催も行っている。 ・身体拘束 虐待はしないよう努力しているし、行っていない。

できていない点
・排泄の情報は大切な情報の為、伝えなければという意識が先に立ち大きな声を出して伝えてしまった。

次回までの具体的な改善計画
・その都度職員同士声をかけ注意しあう。

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表(2024年度)

法人名	特定非営利活動法人 おいなんよ	代表者	佐藤 敏子	法人・ 事業所 の特徴	住宅に囲まれ、少し奥まった所がありますが、一步外に出ると田んぼや畑が広がりどかな場所です。1年を通し利用者さんと一緒に散歩に出かけ四季折々の風景を楽しむことができます。庭を広くしたのでテーブルを広げ焼肉をしたり、お昼を食べたりする以外にも楽しめそうです。地域の行事にも職員が交代で参加しています。利用者様が今できることを今楽しめるように、ご家族、地域の皆さんと相談しながらチームで支援しています。
事業所名	小規模多機能型居宅介護サテライト三日市場	管理者	今村 喜恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	5人	1人	1人	1人	0人	2人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	外部評価の項目1「初期支援」5「多機能性ある柔軟な支援」9「人権・プライバシー」の3項目を全員で確認する。	情報は共有できている。ご家族と直接会うことがなかなか難しい。利用開始前は入院中で面会も難しい。直ぐにどの様なサービスが必要か把握できない事が多い。	常勤だけでは言い時間外の仕事だと思ふ。きちんと見返しが出来ている。今の時代にそぐわない質問もある。	外部評価の項目2「～したいの実現」6「連動・共同」7「運営」の3項目について、職員全員で取り組む
B. 事業所のしつらえ・環境	看板の取り付けをする。庭の手入れをしながらもう少し花を楽しむようにする。	時間はかかったが会議での助言で看板を新しく取り付けられた。庭が無くなるまでは皆で協力して手入れし花を楽しめた。	時間はかかったが新しい看板が取り付けられた。見やすくなったしわかってもらえて良い。庭も広くなり安全面を考えた良かった。非難しやすくなった。花はプランターでも楽しめる。	庭を活用し楽しめることを増やす。季節、気候に合わせて設備を整える。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事に引き続き参加して行く。通信を地域の方にも見てもらえるよう相談に行く。	職員が地域の行事や作業に交代で参加できている。会議での助言をもらい伊賀良支所に通信を置かせてもらったのは良かった。	地域の行事によく参加してくれている。今年は利用者さんも文化祭に参加できて良かった。地域を盛り上げてくれている。	地域の行事に参加できることがあれば引き続き参加していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	希望があればお墓参りなど一緒に行く。	春に1回だけだったが希望があり一緒に行けた。利用者様もご高齢になり希望されなくなった。	希望があつてよかった。お墓参りも大変になってきた。喜ばれたと思う。こういうサービスもしているのかと知れた。	希望があれば家族と相談しお手伝いする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	カフェの継続 会議の時に地域の困りごとを聞く。	カフェは年2回だが、細く長く続けていきたい。1回は伊賀良包括の催しと一緒に参加する形で行った。いろいろな方の力を借りて続けていきたい。	プライバシーの問題で聞いたり伝えたりする事が難しいと思う。会議でも一緒に取り組む事は実状無い。カフェにはどういう人が来て良いのか分かると行きやすい。	事例検討を行い、アイデアや意見を頂き生かしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	年に一度は緊急連絡網の訓練を実地する。BCPの見直しで分かったトイレの不足物品の購入をする。	緊急連絡網を電話だけでなくラインも活用した。ラインの方がメッセージを残せるし直ぐに気が付かなくても返信が確実にでき良いと思う。物品の補充も行えた。	緊急時は電話が使えないと言われている。ラインの活用は良い。避難訓練には参加している。庭が広くなり非難しやすくなって良かった。電話に出るのが遅い。もっと早く出た方が良い。	BCPを見直し3年たったので新しく書き換えたものを委員の皆さんに配る。

